

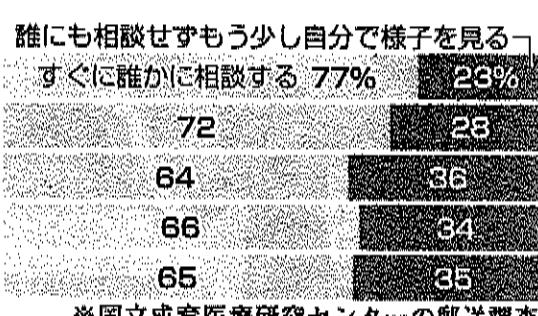
5/6 福井

小中生の1～2割 コロナでうつ症状

研究機関調査

新型コロナウイルスの流行が子どもの生活や健康に与える影響について、国立成育医療研究センター（東京）が調査したところ、小学校高学年から中学生の子どもたちの保護者計約5400人から回答を得た。

その結果、郵送では小学5～6年生の9%、中学生の13%に中等度以上のうつ症状が見られた。インターネットでは小学生13%、中学生22%と高くなかった。SNSを用ひてしまふ伸びかけている。



※国立成育医療研究センターの郵送調査

35%より学年が上がるごとに抱え込む傾向があった。

保護者への郵送調査では、自分の子どもにうつ症状が出た場合「病院は受診させず様子を見る」が29%だった。

同センターの森崎菜穂社会医学研究部長は「コロナ禍の長期化でストレスが高い状態が続き、保護者も余裕がない可能性がある」と指摘。いろいろしている朝起きられないなどサインに気付いたら「まずは子どもの話を聞く」とが大切だ。必要と感じたら、保護者はためらわずに相談や受診をさせたい」と話している。